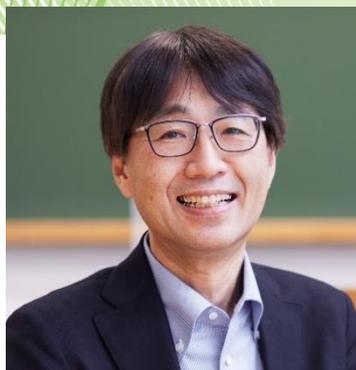


# 教育の ICT 化は、子どもたちの未来を どう変えるか

講師： 児美川 孝一郎さん (法政大学教授)



日付	2024年1月20日(土) 14:00~16:00
会場	オンライン
参加人数	74人 参加費 800円
担当委員会	教育・マスメディア委員会

## 内容報告

### 【セミナー内容】

- 1. 学校教育が文科省の管轄だけでなく、経産省、内閣府が関わり、新自由主義の方向が進展。**  
2018年、学習指導要領移行の途中から学校教育の主導が経産省に変わり「Society5.0に向けた教育」に改変。内閣府主導の教育未来創造会議で「デジタル時代における人材育成」打ち出す。
- 2. GIGA スクール構想の実施は2019年の補正予算で小中学生に一人一台のタブレット配布で始まる。**  
文科省「GIGA スクール構想で令和の教育は劇的に変わる！一人一台の学習端末の実現へ」2020年度国内パソコン出荷台数は2343万台に。無縁であった経済界が一挙に学校教育に参入。教科学習はAIドリルに任せればよいと。「探究」的な学びは企業が開発するSTEAM教育でと、これまでの学校での学びの形態を大きく崩す。2019年、コロナ防止名目の突然の一斉学校休校は巧みに利用された。
- 3. 文科省は、「学校が変わる、学びがかわる」とGIGA スクール構想で個人の進度、能力での学びを進展。その一方で、コロナ禍で学校の大切さを再評価し、段階的ではあっても少人数学級実現の方策を打ち出さざるを得なかった。(2021年1月中教審答申「令和の日本型教育構築めざして。学校を壊す訳にはいかない」)**
- 4. 「改革」の現在地**  
2021年「未来の教室」事業での学校の部活動の地域移行について文科省と同時に経産省が主導。文科省による教育DXは全国学力テストにCBT採用を検討、デジタル教科書の普及、教育データの利活用、現在、教科書は検定を受けてない教材にリンクで飛ぶことができる。
- 5. 私たちはどうするか？**  
私たちのめざす方向は、どんな学校を、教育を、子ども、保護者、市民と共に創っていくのか、これまでの教育実践、運動の遺産を大切にしつつ。  
対抗軸は権利としての教育、教育の機会均等、教育の公共性。
- 6. 子どもたちの未来は**  
①子どもたちの学びと成長は大丈夫か ②学びの自己責任化が格差を拡大する ③教師が分断され、脱専門職化される ④公教育の市場化、民営化へ ⑤公教育の統治システム化へ→「新たな戦前」とのドッキング注視(ロシアの例からも、DXは戦争にドッキングする)  
ICT活用と子どもの学力…2015年PISA報告では、コンピューター回答の学校は読解力に関して急激に低下している。日本の学力テストでもコンピューターを使う学校の学力が低い傾向が見られる。  
学校は、共同の豊かな学びの場、集団の中での人間的諸能力の獲得の場、市民と主権者の育成の場、働く場の主人公の育成の場、それを実現するための学びに必要であればICTを使えばよい。